第38回　ケリ

河北潟の周りの田んぼが活気づく田植えの時期、上空をけたたましく鳴きながら飛ぶ鳥がいます。甲高い声で「ケリリッ、ケリリッ．．．」と鳴き続け、一度聞いたら忘れられない、その声の主がケリです。この鳥、河北潟の仲間たちの中でもうるさいことではNo.1クラスでしょう。

チドリの仲間としては大型の鳥で、長めの黄色い脚を持っています。背面は灰色で、地面にとまっているときは地味な鳥ですが、飛び立つと、翼の先端が黒く基部の方は白っぽく、尾羽の先端は黒く縁取られ基部は白色と目立ちます。嘴は太く短めで黄色ですが、先端は黒い色をしています。目は赤橙色で黄色のアイリングがあり、望遠鏡で見ると結構目立ちます。長い脚で田んぼの中を歩き、昆虫やミミズ、カエルなどを捕まえて食べます。

名前の由来も鳴声からで、それほど鳴声が印象的な鳥ですが、何で鳴いているのかというと、近くに巣があるからです。ケリは田んぼの畦などちょっとした草むらの中に営巣します。地面にわらを敷くように植物を積み、その中に通常4個の卵を産みます。巣に近づいてくるものに対して、ヒステリックに鳴き続けるというわけです。たいへん警戒心の強い鳥で、外敵に対して果敢に攻撃を仕掛け、トビやカラスだけでなく、しばしば人に対しても飛びながら急降下してきて激しく威嚇します。これは営巣場所が地面であることで外敵が侵入しやすいことや、巣立った雛がすぐには飛べず捕食者に狙われやすいことなどが関係していると思われます。

このように、上空を飛びながらけたたましく鳴くことでその存在が目立ちますが、地面に降りているときは意外にひっそりと暮らしています。田んぼの畦の間からじっとしている姿が見え隠れするときは、子育ての真っ最中かもしれません。なぜ田んぼの畦などの狭い空間で、しかも人の影響を受けやすい場所で営巣するのか不思議ですが、孵化した雛がすぐに歩き出して餌をとれるという点で、畦という環境はケリにとって子育てしやすい場所なのかも知れません。こうした営巣場所の選好性から、農家との関係が深い鳥でもあり、多くの農家はこの鳥のことをよく知っています。優しい農家であれば、田んぼの耕耘の際に見つけた巣をそっと移動させてくれます。

最近では、河北潟の周辺の田んぼで畦への除草剤使用が増えており、ケリの営巣への影響が懸念されます。河北潟では今のところある程度の個体が生息していますが、隣の富山県では準絶滅危惧種に指定されています。巣を隠せる営巣場所としても、雛の採餌環境としても草の生えている畦が必要です。私たちは畦の除草剤を使わない生きもの元気米の取り組みで、ケリの営巣環境も守っていきたいと思っています。

（文：高橋　久）